

読売歌壇

【評】今年から四十度以上を酷暑日と呼ぶこと。作者の名古屋は昨年八月、四十度の日があった。異常気温が黄泉の土産とはイロニー横溢。蟬時雨はいつくまに無言館

長野県 村田 実
大阪府 今井 文雄
水切りし供華を墓前に雲の峰
川越市 大野有之介
洞長にまたも風入れ真狐刈
津市 中山 道春
三伏の喉に転がすうがひ水
松山市 夕月 秋人
炎天のホイッスル砂巻上げて
横須賀市 丸本 晴美
炎天下絡み合ふ憂解きほぐす
西宮市 塩川 直樹

【評】ノルウェーの探検家アムンゼンが人類最初に南極点に立ったのは1911年。この猛暑の中で、極寒の南極を思う発想が自在でよい。こういう暑さの凄さもある。

その先の甘い何かに向かうのは熊野古道の蟻の行列
守口市 小杉なんきん

【評】蟻はどこにでもいるから、熊野古道にいても何の不思議もない。けれど人とは、そんなところの蟻をまっすぐ想像しない。そこが面白い。世界遺産の蟻の行列、どこへ行く。雲ひとつなき真つ青な今朝の空暑くなるぞと自分二云ひき
さいたま市 小平 英治

【評】早起きして空を見たら雲ひとつなし。きょうも暑くなるなあ。覚悟しろよと自分自身に言い聞かせている。

ドラゴンが火を吹くごとく口を開け猛きモバイ
北九州市 白木 典子
バツテリ燃ゆ
仙台市 三角 清造
諳する少女の瞳まっすくに沖縄戦の不条理発
延岡市 河野 正

マンションのベランダに咲くアサガオにおはようと言いつける一日
東京都 高橋美奈子
かぶと虫探ってきたよとかいふふた開けて見せ
仙台市 三角 清造
くるひの子ども
松江市 犬山 純子
足元の幼子と見上げてるスマホから眼を
芦屋市 宮本 允子
離さぬママを
若き日にカセットテープで聞いていたジャズが
流れる「深夜便」から
仙台市 千葉 幸平

小池 光選

【評】甚兵衛のあなたは何処に
のか、電波とは何の電波か。意味の取り難い句。しかし「届かない」ということだけは確かに感じられる。オバQもふわふわり橋涼み

草津市 中村 俊彦
蟬生る土の匂ひを陽に洗ひ
生駒市 高橋 裕樹
富士登山さこねよすがに五十年
泉佐野市 布野 寿
甚兵衛に着替えた途端栃木弁
佐野市 村野 則高
この夏もただ憶れるだけギリシャ
姫路市 志 築
湯の匂ひ部屋に振りまく裸の子
神戸市 西 和代
犬吠や空も全円梅雨晴間
神栖市 桐本 博昭

【評】ミニトマトを育て上げたが、中には虫に食われたものもあるし、ひび割れてしまったものもある。それらにも愛着があるのだ。

ライトからレフトへの風雲の峰
東京都 伊藤 直司
覆ひたる蟻しか見えぬとも蚯蚓
会津若松市 安藤 和繁
熱帯魚の水槽だけが光る部屋
町田市 花田 港
楊梅のしきりに落ちて地の染みと
東村山市 小野 寿房
水割りの崩る音や夜の秋
東京都 小出 功
マンゴーの種のまはりには妻のもの
三郷市 山田 吾男
給食の白きエプロン雲の峰
横浜市 塚本 文武

栗木 京子選

【評】七月に京都で開催される祇園祭。ハイライトの山鉦巡行が無事に行われた。祭りが継続するのは世話人の方々の尽力があつてこそ。「会釈して」に重みが感じられる。

血管の荒々しき手眺めつさわりていとし九十五歳
川崎市 渡部シゲ子

【評】血管のすじが目立つもの九十五年の人生を支えてくれた手である。「荒々しき」と言い切ったことで手への愛情が深まった。きゅうり、なす、トマト植えたり我が菜園ピチツと弾ける野菜の元気
入間市 石綿 茂子
控えめな一輪なれど床の間の袋は茶事支えた
いわき市 西山 武

ところどころの茄子の味噌煮の甘かりき遠い故郷を
東京都 影山 博
思ふ酷暑に
神様のご褒美なのか罰なのか千日紅は猛暑日も咲く
紙がよし電子書籍の文字ひかり山羊も食へない
文字を映せり
白河市 塚野 高志
金柑の木より揚羽のまいたちて淋しい庭も一時うれし
市川市 井上二六
ビニールの袋に金魚入れ換へて車に乗り込む引越しの朝
対馬市 神宮 斉之

依 万智選

【評】上の句の動作は、望遠鏡を覗く冒険家か、はたまた海賊か。子どもの想像力にのっかって船に乗り込めば、豊かな世界が広がる。四句切れ、体言止めのリズムがびしりと決まって、夏の絵画が完成した。

銀髪の二人がほほえむマンションのチラシの空
はいつも青空
大和郡山市 四方 護

【評】夫婦の老後を、理想的な感じで描いたチラシなのだろう。「いつも青空」と言い切った後に広がる現実の曇天が、一首の肝だ。袖なしのワンピースもう似合わない入道雲のような服を着る
仙台市 小野寺寿子

【評】加齢を嘆く歌かと思いきや、比喩が楽しい一首。雲の形状に加え、悟った入道の語感も効いている。

あそそか私たちがこれほどの距離三人掛けの二人となれば
大和郡山市 大津 穂波
大縄に入るリズムを待つように部長に言った
「わたし、できません」
今治市 藤本 盟

猫と犬と地球に多いだろう そつうこ
とで悩みたかった
横濱市 富尾 大地
ドローンでなければ見えぬ風景をたづね映し
山へと誘ふ
青梅市 諸井 末男
剪定を終えた街路樹をゆく風の清潔すぎる殺意
安城市 唐沢 くに
愚痴こぼす運転手さんの聞き役で終わった雨のタクシー劇場
山形市 佐藤 紀之
そよりと空気がつかぬ真昼間を郵便バイクの音とほざかる
市原市 井原 茂明

黒瀬 珂瀾選

【評】親は子への向き合い方に悩む。どうすればいいか解らなくなるのも常です。でも、互いに手をつなぎ合うことで交わす愛情は本物。この濡れた腕が親子の信頼の象徴です。賢き機能持ちてみたしと思ひおるや我が家のエアコン無骨な風なり
草加市 新井美智子

【評】最近のエアコンは高性能多機能で使いこなせる自信がない。長年愛用しているうちのエアコンで私は満足。でも、当のエアコンにしたなら、最新鋭への憧れもあるのかも。あかときの博多の街を追ひ山笠の男ら走る水あひながら
福岡市 古賀 悦子

【評】博多祇園山笠のクライマックス「追い山笠」は夜明けに出発。まだ暗い街を熱気が駆け抜ける。そして夏本番を迎えるのです。アディショナルタイムなどとは呼ばせない老後も予後も切羽詰まれば
高崎市 枝窪 俊夫
老いたれば再びは会へぬ燕の砂地に咲ける駒草の花
甲斐市 後藤 栄子
背が割れず命尽きたる夏蟬の身体も軽しわすか
二宮市 観山 哲州

法師蟬恋し尽しと鳴いている妻を失くしし吾に代わりて
狭山市 若松 吉弘
見ないで、と吾子が綴った短冊の願いはゆるる川の向こうに
東村山市 すぎだひな
体調に介護に食に子らの愚痴古希を過ぎてても女子会つづく
仙台市 江川 森歩
手に重き神居古潭の盆石の来し方想ふ梅雨寒の午後
香取市 山之内俊一



◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はよしず

半額祭!

限定特別価格のチャンス!

特典1: たつぷり 約15分

特典2: 洗顔後には素肌が、これからもずっと続けます。肌を褒められることが増える。

洗顔後には素肌が、

蓄積された汚れを洗顔を

一喜ばれて累計販売

洗顔を過ぎて「ゆうか

やっぱりコレ! 70代・80代に爆売

くすみ 毛穴 あきらめて

豊富なカテ

無農薬有

鹿児島の茶匠熊

カテキン濃度

メイクも落

乾燥小ジワ

年齢肌